

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援びび				公表日	2026年 4月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	広すぎず狭すぎず、死角もほとんどなく適切ではある。	場合によって、パーテーションが足りないことがある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	4	人数が足りないときにはヘルプ要請を出して対応している。	来る児童のメンバーによっては1対1で付くことができないことがある。療育中に補助が足りないことがある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	顔写真やイラスト、スケジュールを使って分かりやすくしている。	自身などがあると危険な環境。おもちゃなどが丸見えで集中力を下げしてしまう。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	アルコール消毒を行い、清掃し、整理整頓している。	子どもの背の届かないところに物を置いているが、背の高い子には届いてしまう。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	2	熱などの必要時は別室で待機している。	別室にはパソコンなどがあり、落ち着いて過ごせる空間でない。クールダウンできる部屋がない。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		全指導員が、毎朝のミーティングで、振り返りを行い、反省点や改善点を話し合っている。	今後は、改善案を出し、実行していく。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者の意見や意向を把握し、共有している。	保護者と話をする中で出た意見や話も参考にしていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	毎朝のミーティングや共有会議を行っている。	業務についての話し合いはあまりできていない。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	保護者様に事業所の評価を書いていただいている。	保護者以外の第三者からの評価ができていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		市の協議会が行っている研修などに、定期的に参加している。	受講したい研修の内容があれば、申し出るようにしていく。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		プログラムが完成したら、すぐに共有し話し合っている。	作成段階で出た疑問点なども話し合いながら作成していく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		モニタリング面談などで、課題や目標を聞きそれらを共有し作成できている。	事業所での課題も保護者様に共有していく。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		原案を元に、現場の指導員全員で話し合い、同じ理解で支援ができるようにしている。	定期的に進捗状況を共有し、今後に繋げていく。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		それぞれの児童に合った計画を共有できている。その都度の、見直しや再確認は必要。	支援していく中ででてきた疑問点や改善点、良かった点も共有していく。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	アセスメントシートや発達指標を用いて確認し共有している。	保護者様との面談で記入するアセスメントの為、事業所での様子のアセスメントはない。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		児童発達支援ガイドラインを使用したり、どのような物を使ってどんな支援をしているかが分かりやすく書かれている。	支援をした結果どのように変化があったか、効果があったかを再度話し合い共有する。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	個別療育は、チームが変わるごとに引継ぎと共有を行っている。	個人で考えることも多い為、全員で方向性など話し合っても良い。		

18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	定期的に新しいプログラムを取り入れるようにしている。	固定化している部分もあるが、一度全員で話し合っても良い。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集回活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		状況や目標に合わせて組み合わせたり、新しい児童に合わせてレベルを下けている。	物足りない児童も出てくるため、足並みがそろえるように提供する必要がある。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎朝の朝礼で内容を伝え、サブが必要な場合はその都度お願いしている。	サブに入ってもらい指導員に具体的に活動内容や補助の内容を伝える必要がある。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	翌日の朝礼で振り返ることができている。	改善策や支援方法については、話し合いが必要。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		その時のことをレク案に書いて次につなげている。	改善については話し合いが必要。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		指導員間で見直し話し合いをした上で、保護者様とモニタリング面談を行う。	見直しが必要と感じたら、すぐに共有を行っていく。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		各々の児童の担当者、管理者が必ず出席している。	出席できなかった職員にも必ず共有している。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	4	相談支援員さんや通っている保育園・幼稚園以外との連携はあまりない。	連携の体制を整える必要がある。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		引継ぎシートを3か月に1度園にお渡しし、事業所での様子を伝えている。	担任の先生と子どもの様子について積極的に話し合いたい。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		就学先に事業所での様子を描いたものを送付して、共有している。	小学校に共有する前に、職員でも共有し全員で考え送付する。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		相談支援員さんと関わっている。	相談支援員さん以外の、他機関と関わることはほとんどない。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			はびぶグループのイベントでの関わりはある。	保育所や地域の中での関わりはほとんどないが、機会を設けていきたい。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や連絡帳で日頃の様子を伝えている。	家ではなく、園送迎の保護者とのコミュニケーションがあまりとれない。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	保護者向けの勉強会を定期的に行っている。	保護者の参加が少ないが、今後は参加を呼びかけていきたい。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		見学や契約の際に担当の職員が丁寧に説明している。	フロアの職員も把握し説明できるようにする必要がある。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		モニタリングや面談の際に保護者の意向を確認できている。	保護者の意向や意思は確認できているが、児童の意向の確認は難しい。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		面談時に目標の確認を行ったり、支援計画を渡す際にも再度説明し同意を得ている。	直接会って説明できない保護者様もいる為、理解していただけているか再度確認が必要。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		送迎時の会話や連絡帳の記載を確認し、必要な場合は面談の機会を設けている。	保護者様からの相談を待つだけでなく、最近の様子をごちからも聞く。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	定期的にイベントや勉強会で保護者が集まる機会を設けている。	保護者同士の交流があまりない為、指導員が仲介する必要がある。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談等があった場合には、その日のうちに回答し、必要な場合は面談も行っている。	どの指導員が出席してもいように把握しておく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		はいチーズやインスタ等で普段の様子やイベント時の様子などを発信し伝えている。	発信しているが、全員が見ているか確認することはできない為、確認できる手段があれば良い。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵のついたロッカーや書庫に個人情報の書いているものは入れている。	今後も扱いには注意して行く。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		定期的な面談とその都度保護者の要望に応じて情報共有を行っている。	こどもとの意思疎通もできるようにカードなどを使っているが、時間帯によっては使わず口頭での説明になっている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	2	3	招待はできていないが、ハロウィンイベントで交流する機会を設けている。	交流する機会が少ない為、今後検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		定期的に避難訓練を行っている。	職員には周知できているが、保護者には事前の周知はできていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		避難訓練を行いその際に指導員の動きも確認できている。	通報時のマニュアルは確認が必要。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		見学・契約の際に保護者様に必ず確認している。	今後の為に職員間で対応方法を話し合う必要がある。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アレルギーがある場合は、契約の際に書類を渡し医師からの指示書を持ってきてもらい、指導員間で共有し対応している。	今後の為に職員間で対応方法を話し合う必要がある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		前もって危険な箇所がないか確認している。また、災害時などにどの職員がどの役割かを振り分けている。	普段の避難訓練の時から実践しておく必要がある。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		その時の保護者様への連絡手段や対応を共有している。	会えない保護者様にきちんと周知できているかわからない為、その都度確認が必要。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		報告書を作成しそれに沿ってヒヤリハットを共有している。また、再発防止のため、今後の対応を話し合い、実施している。	半年後など、時間がたつてから再度確認する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修に参加したり、職員同士で話し合う場が作られている。	研修後に、参加していない指導員にも共有する。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1	職員も把握したうえで、保護者様には説明できている。	個別支援計画に記載されていない。	